大手高校の校名の変遷とその意味について

本校は、117 年前の明治 36(1903)の創立以来、太平洋戦争後の昭和 23(1948)年迄の約 45 年間は「長岡高等女学校」という学校でした。しかし、戦後に新しい教育制度が制定されると、「高等女学校」は新たに「高等学校」となり、本校は「長岡女子高等学校」となりました。しかし、「長岡女子高等学校」の校名は、わずか２年余りしか続かず、昭和 25(1950)年には「第二長岡高等学校」と改称されました。その際に、校名を「第二長岡高等学校」にするか、「長岡第二高等学校」にするかという議論があったようです。改称された「第二長岡」という響きは、序列２番目の高校というレッテルを貼られたような気がして、個人的には余り良い気持ちがしませんが、「第二長岡高等学校」という校名は、昭和 42(1967)に「長岡大手高等学校」と改称されるまで、約 17 年間続きました。「長岡大手」という校名は、今年で 52 年目を迎えました。

当時、「第二長岡」に代わる校名としては、いったん「長岡女子」という名前があがったそうですが、当時、長岡市内には今の帝京長岡高校の前身である、私立の長岡女子高校がすでに存在しており、「長岡女子」では校名が重なるため他を検討することになりました。「長岡大手」以外の候補としては、「長岡済美」「長岡中央」「長岡東」「長岡東山」「長岡沖田」などがあったそうですが、最終的に「長岡大手」に決まりました。私は、当時挙がっていた候補の中では「長岡大手」に決まって良かったと思っています。何故なら、「長岡中央」や「長岡東」「長岡東山」「長岡沖田」という校名では、単に長岡市内での位置や地名を冠しただけであり、学校の発展や生徒の成長に対する期待や熱い思いなどを感じることができませんし、「長岡済美」は含蓄のある、素晴らしいものだとは思いますが、一般的に「済美」という言葉を耳にすることが少なく、言葉の意味も難しいです。

ちなみに、大手高校の校是・校訓である「済美」の意味については、１学期の始業式で紹介しましたが、皆さん、覚えていますか？忘れた人も多いと思いますので、再度お話ししますが、「済美」とは、中国の古典『春秋左氏伝』等を出典とする言葉であり、「人としての在り方や生き方を探求する」という意味の、素晴らしい言葉です。皆さん全員が、母校となるこの大手高校の校是・校訓である「済美」の意味を必ず覚えておいて欲しいと思います。

話を「大手」という言葉の意味に戻しますが、「大手」とは、お城で言えば城の正面や城の表門である「大手門」を指します。また、会社や企業で言えば、その業界を代表する実績と社会的信用を兼ね備えた会社のことを「大手企業」と呼ぶのです。こうした点から考えれば、「長岡大手」という学校名を考えられた方が、「第二長岡高校」に代えて「長岡大手高校」という校名に込めた思いは、「輝かしい歴史と伝統を誇り、文武両道に秀でた資質と能力を兼ね備える素晴らしい生徒たちが集う、長岡地域・新潟県を代表する学校に発展していって欲しい」ということになるのではないかと思います。現在の大手高校は、そうした願いに応えているでしょうか？

礼儀正しく、何事にも一生懸命取り組んでいる皆さんの姿を見れば、この学校が、真の意味での「大手高校」と呼ばれる存在に邁進していけるものと確信しています。蛇足ですが、皆さんは、現在の長岡駅を中心とした区域に、江戸幕府の大名であった牧野氏の居城である「長岡城」があったことを知っていますか？長岡駅辺りが長岡城の本丸で、アオー

レ辺りに二の丸、長岡駅の北側辺りに三の丸が構えられていました。そして、長岡城の表門である「大手門」がどこにあったかと言えば、当然、今の大手通りにありました。ですから、「大手高校」という校名に決まった時には、お城の裏側の地域で、さらには移転当時には何もない、皆さんが毎日渡ってくる橋、「大手橋」も架かっていない、田んぼの真ん中にある学校が、「何で大手高校なんだ」と「大手」という校名を揶揄する人もいたようです。

－　令和元年度２学期始業式　校長講話（令和元年８月 26 日）－